

平成 21 (2009) 年の世界と日本の年平均気温について (確定)

2009 年の世界の年平均気温の平年差は+0.31 で、統計開始以来、第 3 位 (タイ) の高い値となり、同年の日本の年平均気温の平年差は+0.56 で、第 7 位の高い値でした。

世界の年平均気温

2009 年の世界の年平均気温(陸域における地表付近の気温と海面水温の平均)の平年差^{*1}は+0.31 で、統計を開始した 1891 年以降では 1998 年、2005 年に次いで、3 番目に高い値 (2006 年、2003 年、2002 年とともに第 3 位タイ) となりました。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 0.68 の割合で上昇しており、特に 1990 年代半ば以降は高温となる年が多くなっています (図 1)。地域的にみると、北アメリカ大陸や中央シベリアを除く多くの地域で、平年より気温が高くなっています (図 2)。

なお、陸域のみの年平均気温の平年差は+0.52 (第 6 位) 海面水温の平年差は+0.23 (第 2 位) となりました。

日本の年平均気温

2009 年の日本の年平均気温の平年差^{*1}は+0.56 で、統計を開始した 1898 年以降では 7 番目に高い値となりました。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.13 の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が頻出しています (図 3)。

平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。2009 年の世界の平均気温が高くなった要因の一つとして、夏季にエルニーニョ現象が発生したことなどが考えられます。

世界及び日本の年平均気温、月平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています (<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>)。

^{*1} 平均気温の平年差は平均気温から平年値を差し引いた値です。平年値としては、1971～2000 年の 30 年平均値を使用しています。

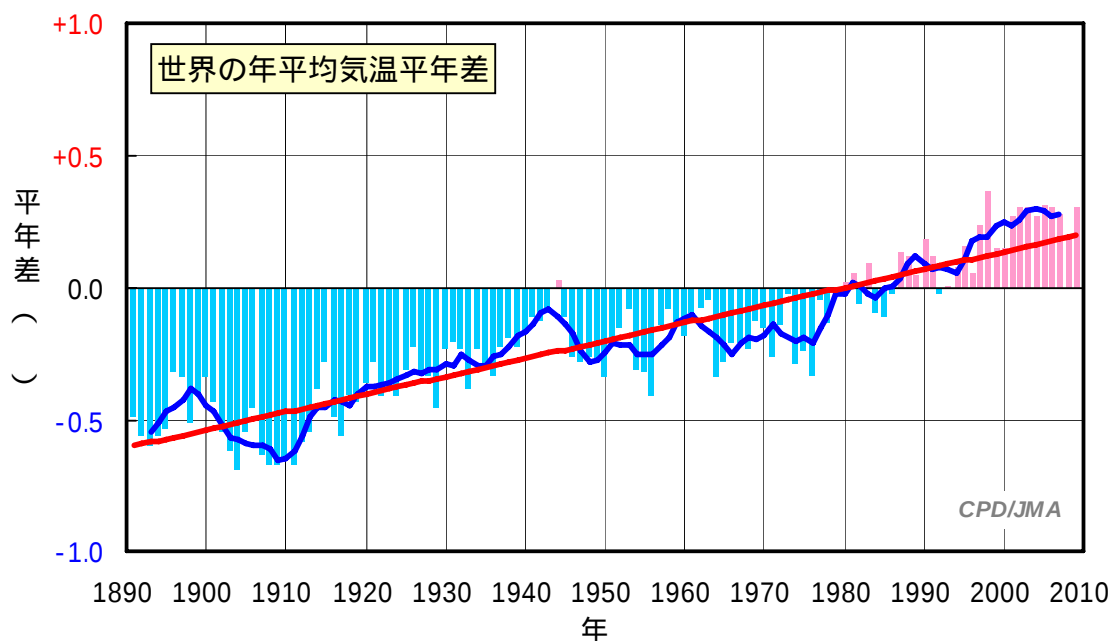


図1 世界の年平均気温の平年差の経年変化(1891～2009年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示す。

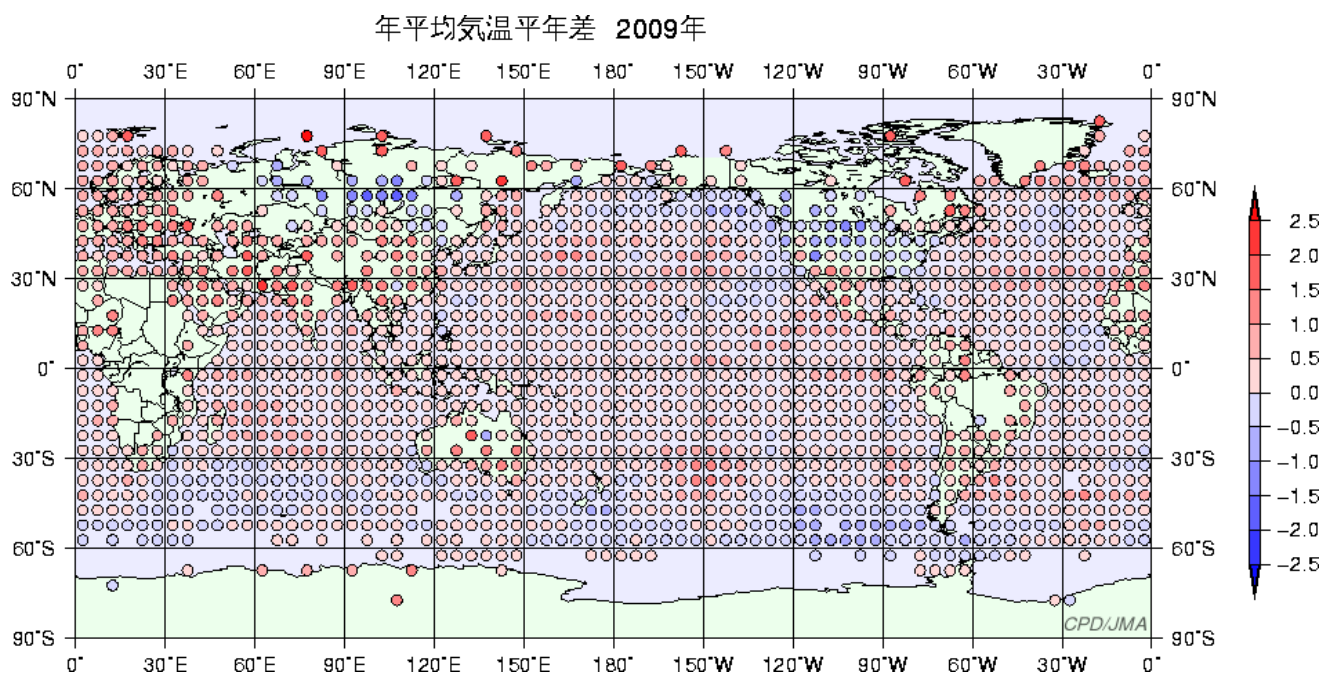


図2 2009年の年平均気温平年差の分布図

各観測点の平年差を緯度、経度5度の領域ごと平均した値で示す。

2009年は、北アメリカ大陸や中央シベリアを除く多くの地域で気温が平年よりも高くなった。ヨーロッパ及び中東から東アジア、北極海周辺の高緯度の陸域では特に高温だった。海面水温は、太平洋の北東部や南緯40度より高緯度の南太平洋などで負偏差が見られたものの、多くの海域で正偏差が顕著であった。

なお、1891年以降の各月の月平均気温平年差および各年の年平均気温平年差の分布図を次のページに掲載している。

http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/map/temp_map.html

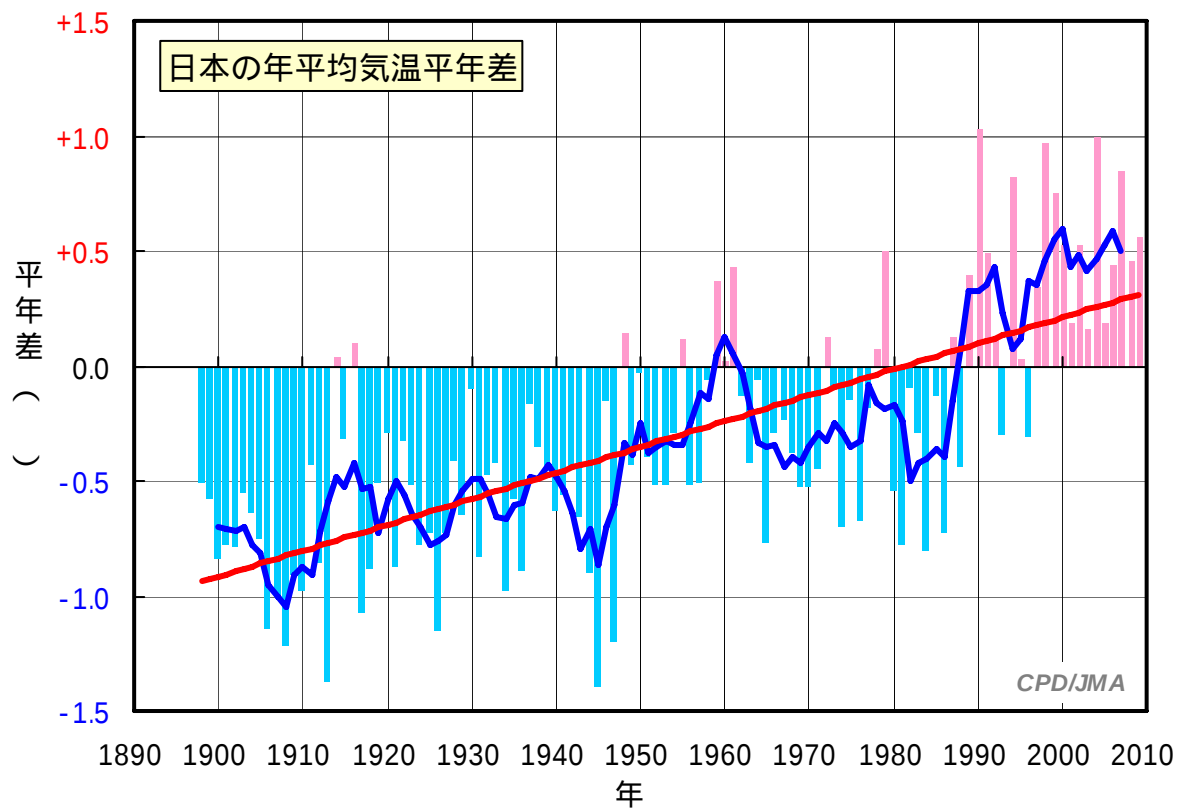


図3 日本の年平均気温の平年差の経年変化(1898～2009年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示す。

世界と日本の年平均気温の順位

世界			日本		
順位	年	平年差()	順位	年	平年差()
1	1998	0.37	1	1990	1.03
2	2005	0.32	2	2004	1.00
3	<u>2009</u>	<u>0.31</u>	3	1998	0.97
	2006	0.31	4	2007	0.85
	2003	0.31	5	1994	0.82
	2002	0.31	6	1999	0.75
7	2007	0.28	7	<u>2009</u>	<u>0.56</u>
8	2004	0.27	8	2002	0.53
	2001	0.27		2000	0.53
10	1997	0.24	10	1979	0.50
11	2008	0.20	11	1991	0.49
12	1990	0.19	12	2008	0.46
13	1995	0.16	13	2006	0.44
14	2000	0.15	14	1961	0.43
	1999	0.15	15	1989	0.40